

時の動き 桜を見る会

労働大学編集委員

栗原 規昭

桜を見る会とは

首相が毎年4月に開催するもので、参加者は各界で功績、功劳のあった者等となっている。

始まりは1952年、時の総理吉田茂のもとで開催された「観桜会」に端を発する。

阪神・淡路大震災、東日本大震災の時を除き、毎年開催されている。その規模は年々拡大され、昨年2019年は招待客1万8000人超、予算5500万円超となっている。この予算は国家予算である。今年はさらに規模を拡大し、その予算は5700万円と言

われている。(今年は中止。P25)

何が問題か

問題はこの公的行事が、安倍晋三の私的行事化している疑惑が浮かんできたことにある。

朝日新聞によれば、この会を含んだ観光ツアーの案内が、安倍晋三の地元の有権者に、首相の事務所名で届いていたとのことである。

政府はこれまで、会の招待者については、開催要領に基づき、各省庁からの意見を踏まえ、内閣官房、内閣府でとりまとめていると説明してきた。

そして、安倍首相は「招待客の取りまとめなどには関与していない」と述べていた。それが今回の観光ツアーの案内で、地元有権者に便宜を図る、公職選挙法で禁止された「選挙区に対する寄付行為に当たる恐れがある」といった指摘があがってきた。

前日には安倍夫妻同席の夕食会も開かれ、何百人も参加していたと、参加者は語っていたようだ。さらには案内状には、4コースから選べる都内観光ツアーも提示されていたという。これが、地元有権者への便宜供与でないと言いつけるのであろうか。

予算や出席者の膨張

先程述べたように、予算（国家の）や出席者の膨張が批判され、安倍晋三の後援者が大勢参加していることも批判されているが、これについて、野党は「公的行事の私物化」として追及したが、政府は詳細な説明には応じていない。

あまつさえ、自民党の二階幹事長は、党の支援者を招くのは「配慮は当然の



野党の「桜を見る会」追及チーム

こと」とうそづく始末である。

右肩上がりの出席者数

招待者が年々増えていることについて、自民党の菅官房長官は、政治家による、推薦を認め、議員や議員秘書には、役職ごとに「招待枠」が決められていることも認めた。その結果、招待者は後援会関係者ばかりになる。また、一度呼んだら次の年に断れないので、年々招待者は増えることになる。安倍長期政権が招いた結果と言える。安倍晋三に到っては、850人も招待しており、首相周辺からでも増えすぎているとの声があがっているそうである。

突然の中止

これまで、開き直っていた政府が、突然、2020年の開催を中止すると

発表した。「公的行事であり、意義あるものと考えている」と税金を使った会のとおり止めを求めた野党の質問主意書にこの答弁書を準備していたばかりなのに、である。

結局は中止を発表することで、反省したそぶりを見せ、野党の追及に対しても、うやむやな答弁で早々と幕引きを図ろうとしたに違いない。

安倍長期政権のおごり

この問題は、つまるところ、安倍長期政権が招いた結果である。安倍はまるで自分が独裁者のごとく何でもできると思い込んでいた。だから、湯水のように公費を使い、自分の支持者を招待して悦に入っているのである。

こういった行事を私物化し、政治も私物化する安倍を一刻も早く、政権の座から引き下ろすしかない。

(くりはらのりあき)